

令和5年度長久手市地域福祉計画等策定推進委員会 会議録（要旨）

会議の名称	第6回第長久手市地域福祉計画等策定推進委員会	
開催日時	令和5年12月20日（水） 午後2時から4時まで	
開催場所	長久手市保健センター3階 会議室	
出席委員 （敬称略）	平野 隆之 松宮 朝 岡元 洋子 川本 さつき 水野 道子 浅井 通正 吉田佳都子	横山 智絵子 加藤 圭子 竹田 晴幸 川上 雅也 宗 絵美子 寺西 弘治
欠席委員 （敬称略）	鬼頭 和宏 水野 美々子 住田 敦子	
事務局 （敬称略）	<p>（長久手市）</p> <p>地域共生推進監 國信綾希 地域共生推進担当課長 山田美代子 同地域共生推進係長 浅見景 同主任 福岡喬</p> <p>福祉部長 川本満男 福祉部次長 中野智夫 福祉課長 堤健二 福祉課福祉協働係長 神藤貴司 同主任 都築康成 長寿課長 水野真樹 健康推進課長 遠藤佳子 同健康増進課係長 近藤小百合 同専門員 土屋奈央子</p> <p>（長久手市社会福祉協議会）</p> <p>事務局長 見田喜久夫 地域福祉チーム 深谷美砂子</p>	

次第	1 あいさつ 2 議題 (1) 次期計画の素案（パブリックコメント案）について (2) その他 3 連絡事項
配布資料	(1) 次第 (2) 計画書素案（資料1-1）（当日差替） (3) 現行計画からの主な変更点まとめ（資料1-2） (4) 重層的支援体制整備事業 実施計画（資料2-1） (5) 重層的支援体制整備事業 素案（資料2-2）
公開・非公開の別	公開
傍聴者人数	0名

議事内容

議事	
委員長	<p>第6回ということで、本日議論した内容で1月にパブリックコメントにかけることになる。委員会としてご議論いただくのが最終ということになるかどうかと思う。</p> <p>今日の進め方としては、事務局とも相談して、最初に吉田前市長から今回、佐藤有美新市長に計画の策定期間中に変わり、事務局も新市長にこの計画を見ていただき色々ご意見をいただいたようだ。</p> <p>新市長の意向も反映しないといけないという立場から、最初に地域福祉計画において、どの点が新市長のお考えで、どういうことを提案されているかということをお話をいただいた上で、行政の地域福祉計画の内容を聞いていただきたい。</p> <p>その後、社会福祉協議会より話をしていただき、その後、地域共生推進課が所管されている重層的支援体制整備事業実施計画についても議論をいただく。</p> <p>最後に、地域自殺対策計画について健康推進課より説明をいただく。幾つか計画自体の間隔を置いて議論をしていくほうが混乱しなくていいのではと思っているため、そういう順番で行う。ぜひ色々なご意見をいただければと思う。</p> <p>それでは、最初に福祉課長のほうから、新市長と懇談された内容等についてご説明いただきたい。</p>
<p>(1) 次期計画の素案（パブリックコメント案）について （資料1-1 計画書素案、資料1-2 現行計画からの主な変更点まとめに基づき、事務局から説明）</p>	
事務局	<p>計画の作成の過程と経緯、これからのスケジュールについて新市長と複数回話し合いを重ねてきた。佐藤新市長も「見える 届く 変わる」というフレーズを掲げて取り組んでいる。この計画の中にも新市長のカラーを出していきたい。</p> <p>計画の内容・意味は変わらない範囲において、用語等を少し変更させていただきたい。</p> <p>これまで計画の中に「たつせがある」という言葉や「おせっかい」「一人一人に役割と居場所がある」「助けがなかったら生きていけない人は全力で守る」という用語が使われていた。これらの言葉を変更させていただきたい。</p> <p>資料1-1 を使用して説明。 計画書素案について説明。</p> <p>第5回委員会では、計画書素案について一度途中経過を報告しているため、その時点から大きく構成が変わったものや、前回説明時から付け加えられた内容を中心に説明する。</p> <p>資料1-1 を使用して説明。</p>

委員長	<p>福祉課長のほうからの説明も含め、皆さんからご意見をいただいて、委員会として判断していくかを含めて、少し意見を頂戴したい。なかなか切り出しにくい面もあろうかと思うがいかがか。</p>
委員	<p>おせっかいという言葉がなくすということだが、34 ページの基本目標のうちの「気づく」の7行目の「おせっかいさんになることも大切です」という、ここは修正があるのかということと、45、46 ページのインタビュー形式のところで「私は地域のおせっかいさんなんです」というこの言葉は、インタビューだからこれは変えられないかもしれないが、次のページの行政の役割の2行目も「おせっかいさんを地域に増やします」ということで、この辺りをどう扱うかということをお教えいただきたい。</p>
委員	<p>何か全部消されていくと寂しい思うところもあるが、公的な文書ということで、方向性が決まればそれでいいと思う。</p>
委員長	<p>今のような意見も含めて、他にはいかがか。</p>
委員	<p>中身は別に変わっていないが、今まで使っていたフレーズがなくなるというのは確かに寂しいという気持ちはある。先の委員と左に同じと言ったら変だが、公的な文書だからということでそのためということになれば。 おせっかいさんについては自分は分からなかったが、長久手らしい。感想にしかならず申し訳ない。</p>
委員	<p>今まで特徴的だった文言が急に変わるということでびっくりしているというのが正直な感想。前市長の思い入れがかなりあった「たつせがある」という言葉については、新しい市長の意向というのを入れるというのは、それは当然になると感じた。 少し寂しさはあるが、客観的に見たときに万人に分かりやすい文言になると、たつせがあるとか、おせっかいというのは、私たちは今まで何回も聞いて理解してきたが、初めて聞いた方にとっては説明が必要な文言である気はする。初めて聞いた方、誰にでも分かりやすい文章に変わるという印象を受けた。 全体の説明の中で、前日も発言させていただいたが、数値で表れないことについてきちんと変化を見ていこうということについては、一つ一つの具体的な事例をきっちり確認していく。アンケートで調査して、数字がこうだったということではなく、具体的なことも見ていこうという点はよかったと感じた。</p>
委員長	<p>これは後で議論になるかもしれないが、第2次計画では使っていた用語になるため、新しい市長の考えということ自体は、今3人の方からも肯定的な意見が出たが、できるだけ分かりやすい用語でということ、内容を変えずにそういう表現を使用していることを第2次計画の文言を使いながら解説的に書くことはしたほうが委員としても納得がいくのではと思う。</p>

	<p>第2次計画ではあえて使われていた用語を、委員会としてもどう考えるかということは、経緯的な形も含めて説明をいれないと突然ということになってしまう。</p>
事務局	<p>経緯等もあるが、まずおせっかいの必要性の理解はしている。「おせっかいをしよう」というのが前回までに記載されていたが、行政側から「おせっかいをしよう」という言葉がどうなのかという意見があった。行動目標の「おせっかいをしよう」を「声をかけあおう」という言葉にして、そのほかの部分では、34ページの「おせっかいさんになることも大切です」とか、その後にもおせっかいという言葉がたくさん出てきているが、そこについては残す予定。</p>
委員	<p>内容というよりも要望的な話で、ご指摘のとおりだと思うが、現行計画の時に「たつせがある」という言葉を入れる時にかなり議論して、その趣旨を盛り込んだというか、あえてそういうメッセージを入れたという経緯がある。ある種定着してきた言葉ではないかと思う。歴史をかけて、みんなで共有してきたので、ここは文言として前面に出さなくても経緯というか、こういうことをやってきたという歴史的なものは記述いただければと個人的に思う。</p> <p>あと、「煩わしい」とかもあるかと思うが、通常はマイナスのイメージな言葉が、実はすごくポジティブな、いわゆる地域福祉の推進につながっていけばというメッセージがあったと思う。要は、ポジティブなところだけだと流れてしまうが、あえてそういう「おせっかい」とか「煩わしい」とか、えっと思わせるところでもう一度考えさせる。言葉が流れないというような意味でも、経緯というところで委員長の指摘のとおり残していただければと思う。</p>
委員長	<p>非常に重要な指摘で、きれいな言葉でスツとってしまうよりは、言葉に引っかかって、そこで立ち止まって、煩わしいですがという話は非常に地域福祉を進めるに当たっては、重要なキーワードということもあり、何かその辺が流れるような言葉だけで終わらずにというのが今までの議論だったので、第2次計画をどのように継承していくのか、あるいは評価していくのかも含めて、記述方法で工夫をしたほうがいいのかという意見だった。</p>
委員	<p>私も皆さんと同じように、このフレーズがとても印象深いもので、これが定着しているのは確かだ。特に高齢者の方たちにとって分かりやすいというのはとても大切なことだとは思う。これまで培ってきた「たつせがある」という言葉は、高齢者にとってはもともとなじみのある言葉。方言のようなものなのでこの文面からは優しさを感じる。ただ今回、次の世代に向けてメッセージを新しくするというような印象を持った。これからこのメッセージの中心になるようなものは何になるのかを今見守っているというか、楽しみにしている。</p>
委員長	<p>新市長のという言い方でも構わないと思うが、メッセージ性をこの計画</p>

	<p>に付け加えていきたい。何かそういうニュアンスも進行管理の場面で取り入れていただき、一緒になってつくってこういうニュアンスも中に取り入れていただくといいのではと思った。</p>
委員	<p>今までの長久手らしさを表していた言葉が消えることは寂しいと言われた方もいたが、計画は様々な市で策定しているので、結構どこも同じような表現になりがちではないかと思う。皆さんが色々な議論を重ね、長久手の地域を生かした、らしさを出してきた計画だったと思う。その辺の経緯を何かの形で伝えることはあったほうがいい。何か普通になってしまう感じがしたので。</p> <p>中身は変わらないというところは、本当にほっとしたというか、積み重ねてきたもの全体に対しては、新市長もきちんとご理解をされているということで、そこはよかったと思う。</p> <p>流れて、きれいな言葉というのはどうしても残らないというのは本当にそう思う。色々地域事例も今回計画の中に出ているので、長久手らしさがよく見えるところでは感じた。</p>
委員長	<p>イラスト等で長久手らしさを表現しようとされているので、44ページ以降、インタビューのイラストとか。実際に行動目標の中に入っていたときも、先ほど委員がエピソードを入れていただきながら進めていくのがいいというお話もあったので、今回長久手らしさみたいな表現をちょっと残していただければと思った。</p>
委員	<p>皆さんと同じ意見で繰り返しになるが、長久手らしさは残したほうがいい。市としての立場ということと、内々で使う言葉というのは、両方あってもいいのではないかと思った。両方上手に使っていく。今までどおりのものも残していけばと思う。</p>
委員長	<p>市民目線で言う場合には、「おせっかい」という形でも構わないのではないかと指摘だった。</p>
委員	<p>「たつせがある」という言葉だが、昭和の世代というか、なじみのある言葉。「たつせがある」といったら何となくイメージが沸くが、今これだけ若いまちと言っている中で、「役割と居場所がある」という言葉に置き換える等、もっと分かりやすい言葉で計画をつくっていくことは、今後のことを考えたらいいのではないかと思った。</p>
委員長	<p>福祉部長はこの分野を長く背負ってこられた経緯があらうかと思うが、今、世代間の話も出た。たつせがある課をずっと担当されてきた立場からして、どういう印象か。</p>
事務局	<p>非常に答えにくい質問だが、色々な考えはあると思う。先ほどから様々な意見が出ており、まず行政計画をつくるに当たっては、やはり誰もが読んで分かるというのが絶対条件だと思う。その中に長久手らしさをどこで残すかということがキーだと思う。</p> <p>今回、新市長とも話をしながらやってきたところでは、内容的には問題ない。だが、来年の4月、策定中の計画が10個程度ある。行政としてはトップが替わったというのは市民の代表が替わった訳で、良いところはつ</p>

	<p>なげていくことは必要だと思うが、らしさの話でいくと新市長らしさというのもこれから何期かやっていくとなると、前市長がやったようにらしさが残っていくと思う。</p> <p>前の良いところを生かしつつ、変えられるところは変えましょうというのが新市長の公約の一部にもあるので、「見える・届く・変わる」、今までだと「つながり・あんしん・みどり」というキャッチコピーを持ちながらやっていたため、そこはやはりどこかで少しずつ変えていくということになるかと思う。「たつせがある」という言葉も、課長をやっている時、色々な所へ行くと「何だこれは」みたいな話は言われたが、何となく人に愛着を持っていただけというか、話のきっかけになる言葉ではあった。しかし、これも一つの時代の変わりということで、新しい計画を見たときに、また違う福祉という点が出てくるかもしれない。中身は大幅に変わっていないので、新市長の意見も取り入れながら、新旧混在型でいけたらいいのではと思っている。</p>
委員	<p>私としては、たつせがあるという言葉は好きな言葉だった。本当に長久手らしい言葉と思っている。</p> <p>市長が替わったから若干変更はしなくてはいけないだろうが、目標は何も変わっていない。ならば、「たつせがある」という言葉くらい残しておいてもいいのではと思った。</p>
委員長	<p>委員会として色々ご意見をいただいた。これは議事録として残るので、それぞれの立場で明確な気持ちも含め発言いただくことは大事なことと思う。忌憚のないご意見をいただければと思う。</p>
委員	<p>私たちの世代だと、「たつせがある」とか「おせっかい」という言葉は理解できるが、若い世代の方たちは分からない。また、長久手も新しい人たちが入ってきているとするならば、方言ということが分かりにくいと思うので、言葉を残しつつも皆さんが理解できるような文言も入れていただいたほうが良いと思う。</p>
委員長	<p>地域共生推進監としては、外部から見て、あるいは中で色々ご苦労されたということも含めて、もしよろしければ今の議論も踏まえて何かご意見があればお願いしたい。</p>
事務局	<p>市役所職員としての立場を少し離れるかもしれないが、委員から、「たつせがある」という言葉に対する愛着だとか、「おせっかい」ということに対して改めてそういうことが必要なんだと言われている、この地域福祉の流れに関して共感の言葉をいただいたことについて、市役所側の職員として非常にうれしく思う。</p> <p>また、言葉の表現の仕方については調整が必要ではと思うが、委員が感じていることについては、明確に項目を設けて計画の中に記載しているところがある。また、皆様のアドバイスの中でも、計画を策定するプロセスや、その中に書かれている日頃の地域での関わりというのが、お互いがお互いを尊重し合い、たつせをつくり合うというところで動いてきているところは、まさに長久手の特徴だということに記載することは可能ではと思</p>

	<p>っている。そういったプロセスの部分のところで、皆様の心の中の共通のキーワードとして、あとは第2次計画の策定の中で、そういった言葉をどういった意味合いを持たせた言葉なのかを深く議論されたということをおっしゃっていただいたので、きちんと次に引き継ぐべきものとして書いていく必要があると思っている。</p>
委員長	<p>次期計画の評価ではないが、継承というか、その基盤が2次計画でうたったことが意識の中で形成されているのではという事柄で、評価的な視点を補足していただくことにしたい。</p> <p>それと、委員が言っていただいたようなことも記録として、経緯も含めて色々な意味で累積するというか、地域の中にたまっていく内容なので、地域福祉計画らしい内容として記載する部分について、継承していく内容や若い世代に通用するような言葉を補っていくとか、今回の変更に至る背景を市長が替わったということだけでないフレーズで補足していただくことにしたい。</p>
委員	<p>私も言葉には引っかかりを持つほうだが、先ほど委員からお話があった「たつせがある」という言葉に最初に引っかかったのは私だったと思う。元々の意味を損ねてしまうような表現はどうかと思うと発言した。意味合いとしては分かる。定着もしてきているので、何らかの形で経過をきちんと表記しておくという形でいけば、公的な計画ですので、一々説明しなくても分かる表現というはやはり一番望ましいと思う。特に若い世代に訴えるという、これからの子供やら子育ての世代の方たちに地域福祉計画を浸透させていくためには、説明の必要のない言葉にすることは、とてもいいことではないか。</p>
委員長	<p>実際に計画をつくる過程の中でも、若い世代が参加したまざって長久手フェスタをはじめ、いくつかプロセスの中にそういう試行的な取組もされているので、引き続き進行管理の場面でも継続できるように、若い世代のことをもうちょっと強調するようなニュアンスで、今後の進行管理のことについてもやっていただけるといい。</p>
委員	<p>まず、「たつせがある」とか、そういう言葉の意味合いをどうするかという議論の時間を十分に取るのが長久手市らしい。</p> <p>色々なご意見があるようだが、若い世代にも分かるような言葉を使っていくことが大事ではと思った。しかし、これだけしっかりと議論したということだったので、例えば103ページのところの写真を少し削り第6回ではこのような検討しましたなど記載してみる。この計画はこのような経緯で言葉が変わりましたという説明書きを、どこかに入れたらいいのでは。市長の挨拶になるのか、計画の経緯になるのか、今私が言ったみたいに委員会の開催状況で入れるかは分からないが、そういうことを入れるのが長久手市らしいというのが伝わるような気がする。</p>
委員長	<p>少し経緯を丁寧に、特に2次計画の策定の議論などに立ち戻ることも含めて修正をしていくということによろしいか。</p>

事務局	<p>「たつせがある」とか「おせっかい」とか「つながる」という言葉、私も全て大好きな言葉だ。特に「たつせがある」という言葉には人一倍思い入れがある。私もたつせがある課にいたので、皆さんの言葉一つ一つがすごくうれしく思っている。</p> <p>言葉が他のものに置き換わっても中身は変わらない。「たつせがある」「おせっかい」「つながる」というものは、いつの世代、いつの時代でもやはり普遍的なものだと思う。ここの部分は継承していかなければならないと思っている。ただ、継承していくものは若い世代にどう伝えていくのかというところが大事。そのあたりも含め、どのような言葉で伝わるのかということを考えてながら進めていきたい。</p>
委員長	<p>2次計画の内容の蓄積や一定の評価について書き加えていただき、今日の議論の文言でも結構だが、今回の変更点に至った経緯についても記載いただければと思う。また、イラストなど過程の中でも、長久手らしいものをかいつまんで分かるようにしていただく作業もしていただければと思う。</p> <p>それでは、社協の計画にうつる。</p>
<p>(1) 次期計画の素案について (資料1-1 計画書素案に基づき、事務局（社会福祉協議会）から説明)</p>	
事務局	<p>計画書素案について説明。 前回第5回委員会からの変更点について説明。 資料1-1を使用して説明。</p>
委員長	<p>会長から何か補足があればお願いしたい。</p>
委員	<p>社協は生活に困ってみえる方のための社会福祉法人であるをつくづく思う。今説明があったフードバンク等、経済的にお困りの方はコロナだけではなくてそれ以前に既にお困りの方がおみえになるというのを実感している。</p>
委員長	<p>最初におっしゃったように、基本目標のそれぞれに社協の役割があるので、それを特集ページに引っ張り出して、活動計画の中に基本目標5つの中で社協はこういう役割を果たすという一覧表みたいなものを入れていただくと、社協の役割の一覧が見えるのではないかと。生活に困窮されていて、なかなか顕在化しない課題に対して積極的に改革的に取り組むものとして、フードドライブをもう少し強調していただいてもいいのではと感じた。</p> <p>この後、重層的支援体制整備事業の実施計画の内容とも重なるところもあるので、この後の実施計画の素案の説明を受けて、一体的に議論いただくことにしたい。</p> <p>「たつせのある」について時間を使ってしまった。この後の自殺対策のこともある。全般にわたっての議論の時間も取りたい。社協の活動計画については、この後また議論いただくことにし、重層的支援体制整備事業実施計画の素案の説明にうつる。</p>

<p>(1) 次期計画の素案について (資料2-1 重層的支援体制整備事業実施計画概要、資料2-2 重層的支援体制整備事業計画素案に基づき、事務局(地域共生推進課)から説明)</p>	
事務局	<p>重層的支援体制整備事業実施計画素案について、資料2-1、資料2-2を使用して説明。</p> <p>地域福祉を推進し地域共生社会を実現するために、重層事業を実施していくという趣旨で作成。基本的には地域福祉計画と同様の考え方で修正を行わせていただいた。</p> <p>地域福祉計画37ページから41ページ中に理念や概要について、地域福祉計画と特に関係が深いものを記載し、個別の事業内容であったり、ガイドラインに基づく記載事項に関しては別冊子で作成する。</p> <p>長久手市の重層的支援体制整備事業は、令和3年度から取り組んできている。今回の計画は令和6年度からの計画となっており、初めての計画。今回の計画策定にあたっては、これまでの経過も大切に記載し、それを継承するという形をとっていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>実際の実施計画の素案に、それぞれ各ページに今説明いただいた内容が書き込まれているので、そちらも参考にさせていただければと思う。</p> <p>例えば素案の12ページには、庁内外の連携体制の構築について掲げている。先ほどの説明ではなかなか見えていない具体的な仕組みが計画の中に記載されているので参考にさせていただければと思う。</p> <p>まず、社協の活動計画や重層的支援体制整備事業の実施計画等について、ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>社協の計画で、項目を書き込んでいく所に関して、この会議の最初に委員長が高浜だったか、高校生も参加してという話があったと思うが、社協の啓発の漫画みたいなのを支援される側が支援する側になるというような形で漫画を描かれている方がおられたと記憶している。その方に描いていただくのはどうかと。一番趣旨に合うのではないかと。色々な形で計画自体に参加する。社協職員の方でイラストが上手な方がおられると思う。そういう形で参加されてはいかがかと提案というか意見だ。</p>
委員長	<p>実際に、大阪府の豊中市の社協ではひきこもりの人が漫画を描いて、本にまでなったという経緯もある。参加していただけるのであれば検討をお願いしたい。</p> <p>竹細工について関わった委員からせっかくなのでご発言いただけたらと思う。</p>
委員	<p>小さな竹笛だが、とてもいい音が出る。作っている方に私にもつくり方を教えてという話をしたら、では竹細工のサロンをつくらうということで9月に立ち上げた。9月のときは4人だったが、月が変わるたびに2人、3人、4人と増えて、今12人になっている。</p> <p>作っている方は今まで1人でコツコツと作られていたが、これからはみんなに教えなくてはいけないから大変だと言いながらも楽しんでいる。</p> <p>また、知り合いの奥さんが「最近うちの旦那、全然家から出ていかない」</p>

	<p>という話があったので、たまたまシニアクラブでCSWの方がいらっしやったので相談してみたら、じゃあ今から行こうという話になり、奥さんに話をしたら参加することになった。次に、今度は地域にある公共施設にお邪魔されて、竹細工を気に入ったということで週1回行くというような話まで持って行ってもらった。私は一言しゃべっただけだが、あとは流れるように動いていった。地域で見ていると、特に男性がひきこもりになってしまうと感じている。</p>
委員長	<p>重層の説明にこの事例をうまく反映してほしい。</p> <p>今のお話でいうと、先ほどの「つながる」の話の中で、身近につながるというようなことも含めて、つながる中にCSWの役割、あるいは地域共生推進課地域担当の方の役割なども補足をうまく入れていただくといいのではと思った。</p>
委員	<p>委員会で人材確保について話をした記憶があるが、年々人材確保、福祉人材が課題になっている。計画に記載があったかなと思いながら、ぜひそこもポイントに置いていただければと考えながら聞いていた。</p>
委員長	<p>全体として、地域や福祉の人材を今後とも確保していくというような事柄も重層的事業の中で何か確保できないかというご意見。検討していただければと思う。</p>
委員	<p>改めて計画を見たときに、私も相談員をやらせていただいているが、相談できる場所がたくさん準備されている。</p> <p>ここに子育てコンシェルジュというのがあるが、例えば何か制度を受けたくて相談に行って、当てはまらず違いますと言われた時に該当する窓口を紹介されず、私駄目でしたと終わっているパターンがあると聞いている。相談窓口同士の連携というか、色々な相談窓口に行ってそこではなかった時に、そのまま最後まで伴走すると言いながらそうでないパターンもあるように感じる。</p>
委員長	<p>既存の相談窓口で解決しない場合に、どのようにフォローしていくかということだと思う。今のご指摘を受けて少し考えていただくと同時に、計画の構成について気がついたことがある。</p> <p>7ページの第3章は重層事業の取組になっている。あとは、これまでの歩みをはじめ、今まで取り組んできた内容が書いてあり、4章は今後の方向性、これまでに取り組んできたことを継承していくという位置づけになっている。4章だけ見ると1ページで終わっている感じになるので、むしろ3章のタイトルを「これまでの取組とこれから」等、何か連続しているほうがいいのではと思った。</p> <p>相談の漏れについては、記載は要るのではと思う。</p>
事務局	<p>断らない相談支援ということで、本来窓口が違ったとしても、責任を持ってまずは受け止め関係機関につなぐ、制度につながらなければ例えば地域共生推進課であったり、CSWへつなぎ制度の適切なサービスにつながられるように伴走支援をしていくという体制を今取り組んでいる最中ではあるが、現実的にはできていないことについては真摯に受け止め、体制</p>

	を強化していくことを計画に盛り込みながら、少しずつ体制の整備に向けて努力していきたい。
委員長	<p>19 ページの中に一つの受皿というか、そういうことになっているんだという記載をしていただきたい。各相談機関がそういうつなぎ先、「つながる」のところで新市長の言葉もあったかと思うので、その点を地域共生推進課とCSWがそういう役割を担うこと、今後体制を整えていくことについて記載を補強していただくということにする。関係機関がそれを理解していないと駄目なので、庁内連携で対応するということかと思う。</p> <p>時間の関係もあるので、自殺対策の説明と議論をした後に全体として振り返るという形にさせていただく。</p>
(1) 次期計画の素案について (資料1-1 計画書素案に基づき、事務局(健康推進課)から説明)	
事務局	<p>計画書素案について説明。</p> <p>前回委員会からの変更点について説明。</p> <p>資料1-1を使用して説明。</p>
委員長	何か質問あるか。
委員	<p>81 ページの背景のところ、これから追記されると思うが、2020年に特に女性の自殺者数が増加したこと、今後の課題の重要な背景としてコロナ禍で変化したと思うので追記していただいたほうがいいかと思う。</p> <p>もう一点。以前も申し上げたと思うが、これは長久手市に限らず、84ページの自殺死亡率について、これは国の方針だとは思うが、ミスリードするところがあり、80代の男性が圧倒的に高く、ここが課題だと読める。それ自体は間違っていないかもしれないが、1人2人でパーセントが変わるような小さな自治体だと出てくる。特にコロナ禍で問題になったのは、孤立した若い人。今まで男性の中高年の、あるいは高齢者が多かったが、様々な世代に広まっていき、特にコロナ禍で女性の自殺者数が非常に多くなったという経緯があったと思うので、課題を何か特定する背景の部分をミスリードされないような書き方にしたいのでは。</p>
委員長	この表は市でつくられたのか。
事務局	<p>今、委員にご指摘をいただいた84ページのグラフについては、地域自殺実態プロファイルというものを市町ごとにデータをいただいております、そちらの値をそのまま使っている。</p> <p>ご指摘をいただいたように、人口が少ないところで表の見え方なども変わってくるが、全国的な問題としては若い方、また女性の方というようにところに視点を当てて取り組んでいかなければいけないということもあるので、こちらの84ページのコメントの仕方などに工夫を加えていきたい。</p>
委員長	図表は変えられないのか。

事務局	<p>図表については、値の求め方など、市では独自のものを加えていないので、年代の区分けなどについても、地域自殺実態プロファイルのデータをそのまま使わせていただき、80歳以上の男性が高くなっているコメントを少し違う視点も入れるなどして、そこにあまり注目がいかないような書き方で対応していきたい。</p>
委員長	<p>実数は提供されているか。実数が提供されていれば、作り直せば済む話だと思いますので、検討してみてください。</p>
事務局	<p>実数でも提供はされているので、グラフをつくり替えることはできるかと思うが、実際に80歳以上で数字があるので、70代と合わせても60代から合わせたとしても、ここが大きく見えてしまう現状というのは変わらない。</p>
委員長	<p>70代の男性はゼロで、上へ上げればそれほど目立たないのではと思う。一回、計算してみてください。駄目ならこのままでということ。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員長	<p>81ページの記述についても補強してほしいというご意見なので、お願いしたい。</p>
事務局	<p>そちらについても追加する。</p>
委員長	<p>全体的なことでもしご意見あればお願いしたい。いかがか。</p>
委員	<p>第2次計画と比べると、前はそれぞれの事業が一覧表で項目のところに出ていた。今回は省略されており、いわゆる役割という形で文章表現はしているので網羅はされていると思うが、具体的なものというか、これだけを読んで市民の方は理解していただけるのかという気がするが、計画上いかがか。</p>
委員長	<p>できるだけ具体的な役割の事業名としてどう見せていくかということも含め、前回計画からの継承の部分と重層的支援体制整備事業がそれを補強することも含めてですが、可能な範囲で例えば目標5であればこういう事業内容がそれを担っていくということが盛り込めるようなことを検討していただき、委員方に提示していただければ。そういう方向で検討したい。</p>
事務局	<p>本日いただいたご意見等を踏まえ、これまで話し合ってきた内容、計画の意味・内容というものを生かして、語句等の修正は事務局に一任していただいで進めていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>先ほど社協にも伝えたが、全体を抜き出して後ろで体系的に見えるように修正をお願いしたい。</p> <p>その際、活動計画の社協役割分だけ抜き出し、後ろで体系づけていただいて、プログラム名も補強していただいたらどうかと思う。</p>
事務局	<p>重層的支援体制整備事業の区切りでいくと、今回初めて計画策定ということで、3年間我々が活動し見えてきたことを私たちに記載させていただいた。割と感情があふれ出すような中身になっていると思う。ぜひ時間</p>

	<p>のあるときに目を通していただければと思うが、まさに長久手らしさという意味でいくと、小学校区単位に職員を置き学ばせていただく時間がすごく多かった。</p> <p>CSW、委員もすぐ動いていただき、まさに気軽に相談できる関係性がすごく助かったというコメントもいただき、非常にうれしく思っている。</p> <p>重層的支援体制整備事業の計画は、15 ページには特徴的な小学校区単位で、専門職の市役所職員ではなく、事務の市役所職員を配置し、CSWとタッグを組んで地域に出るところが、各自治体で見てもかなり特徴的な体制になっているところ。そこに併せて、地区社協の取組、役割についてもぜひ文字にしたいと思っている。パブリックコメントに向けて急いで作業を進めるが、地区社協へ我々も入らせていただいているので、その取組を見ながら、地域の中でのつながりについてこのような役割を果たしているのではないかということ、勝手ながら書かせていただければと思うので、ぜひ委員にも、地域の中でのつながりで組まれているところについても、CSWの役割も含めて、またコメントいただくと非常にありがたい。</p> <p>また、専門機関についても、個別のケースで我々が役割をいただいているところがあると思う。個別支援の中で地域と協働する際につきぎ役というか、翻訳をするコーディネーターみたいなところの部分で、できる範囲も広がってくるのではないかという思いを個人的には持っている。専門機関出身の委員の方からは、まさに福祉の担い手の広がりの可能性というところで是非見ていただき、このような書き方ができるのではないかというところを教えていただけるとうれしい。</p> <p>最後になってリクエストが多かったが、パブリックコメントまでに皆さんと少しやり取りができればと思っている。</p>
事務局	<p>この計画については、来年度から6年間ということで、また新たな長久手が出発することになるが、重層計画が3年ですので、またどこかのタイミングで振り返りというか、経過確認が必要ではないかと思っている。</p> <p>本日、色々なところで長久手らしさについて多くの時間を費やしていただいたことは、すごくいいことだと思う。そういう中で、こちらについては計画なのでパブリックコメントを実施し、市民の意見も加えて完成形というように持っていく予定。パブリックコメントが1月15日からと決まっているので、それまでに本日いただいた意見、訂正や新市長の思いについても加え、パブリックコメントまでには一度委員に提示できるよう、事務局内で作成する。また1月20日にはこの計画の説明会を実施したいと思っている。また追って連絡があるかもしれないが、説明会に来ていただくと、市民の声が直接聞けると思うので、もしお時間が許せばご参加いただければと思う。</p>
委員長	第7回は2月か3月か。
事務局	3月を予定している。

(2) その他・連絡事項

事務局	<p>パブリックコメントについて説明する。</p> <p>今回委員会にていただいた意見に基づいた修正、誤字脱字を含めての修正をし、来年1月15日からパブリックコメントを30日間実施する。計画書素案については、ホームページでの公表、市内各施設への設置により幅広く意見を募る。実施期間中である1月20日土曜日には、市役所にて計画の概要説明を実施予定。パブリックコメント終了後には、いただいた意見について市の考えを公表し、結果を3月に実施予定の第7回地域福祉計画策定推進委員会へ報告する。第7回委員会を経て計画の最終的な承認となる。パブリックコメント前にお集まりいただく機会がないので、事務局で修正したものを委員に提供させていただきく。</p> <p>会議は3月を予定しているが、日程については改めて調整の上ご連絡する。</p> <p>本日の委員会展開を通して何かご意見やご質問はあるか。</p>
委員	資料2-2の計画にページ数がないので、記載していただきたい。
事務局	<p>地域福祉計画と合わせまして最終的に確認させていただく。</p> <p>誤字や表記の揺れ等のご意見があれば、後ほどでもご意見いただきたい。</p> <p>閉会</p>